

故人の遺志をひきついで

第25回「いしずえの碑・顕彰追悼会」

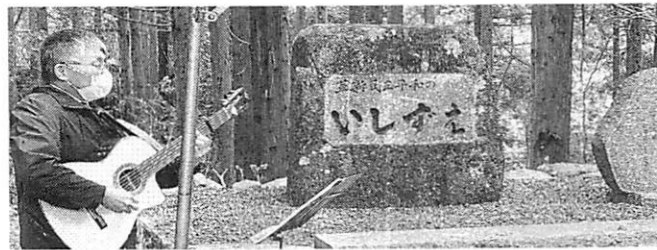
県内で革新・民主・平和のために活動して亡くなられた人の「第25回いしずえの碑・顕彰・追悼会」が10月8日、敦賀市杉津の「いしずえの碑」の前で行われ、新しく10名の方の名版が碑に納められました。

その中には、県同盟顧問だった嵐山繁樹さんや、五十嵐元治さん、河内猛さん、北出芳久さん、松下圭介さんから5名の同盟員がおられました。

村井慶三県同盟会長は「私たち同盟は、『ふたたび戦争と暗黒政治を許すな』の旗を掲げて、この「碑」に納名されている故人の遺志をひきついでいく決意を新たにしています」と、挨拶しました。

同盟員の斉藤清己さんは、お母さんの名版を碑に納めた後、ギターを弾いて「語りかけ」をしました。最後に参加者全員が献花をして閉会しました。

「追悼会」後の「いしずえの会」総会で会長に山野寿一さん、事務局長に北西七郎さんが再選されました。



民主団体へ署名の協力要請

県同盟の幹事会が10月26日に開かれ、署名運動の強化や支部建設、年末財政活動などの取り組み促進を確認しました。

早速、11月2日には、村井会長と吉田事務局長が新日本婦人の会や福井民商、県労連などの民主団体を訪問し、署名の協力要請を行いました。

各同盟員も年末・年始など知人との出会いの機会を生かして、署名活動をすすめましょう。



その後、中央と各県からの報告を受けて質疑討論を行いました。中央本部の吉田万三会長は、「戦争犯罪の追及という点で日本は世界の常識から立ち後れている。これを曖昧にせず調査と謝罪・賠償をきっちりさせることが日本の進歩にとって不可欠だ。そして、ここに同盟の存在意義がある」と熱く語られました。石川県からは、伊藤千代子の映画上映に県内13カ所できりくみ、会員拡大でも前進しているとの報告がありました。新潟県上越市では7年ぶりに支部を再建し、会誌の発行や6・9スタンディングなど活発に活動していることが報告されました。他の報告も教訓に満ちたものばかりで、参加者は大いに刺激を受けるともに同盟活動の意義と重要性を改めて確認しました。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の北信越ブロック交流会が、10月4日・5日の両日、福井県あわら市で開催され、福井県からの20名を含め、全体で43名が参加しました。はじめに中野哲演さんから「原発マネー・ファシズム国内植民地化、それからの解放へ」と題した講演が行われました。講演では、中野さんが、平和運動や原発運動に関わるきっかけとなった原爆被爆者の方との出会いや小浜に帰ってから原爆被爆者援護托鉢や原発設置反対のたたかいなどがリアルに語られました。中野さんは、福島や若狭への原発集中は、原発マネーで地域を支配する国内植民地化であると断じ、ここからの解放を勝ち取るために何としても原発ゼロを実現しようと呼びました。

同盟の存在意義を語り広めよう！
10月4・5日 北信越ブロック交流会



福井県版
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
福井県本部
〒918-8203
福井市上北野2-9-15
TEL 0776-76-0836

- 私たちの運動の基本
- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
 - 一、治安維持法体制の復活に反対する
 - 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
 - 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。